

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 15-1

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	救急業務体制整備事業			
評価者	担当課・係名	紋別地区消防組合消防署雄武支署 庶務係		
	課長等	職名 氏名	支署長 渡邊 孝 司	作成者 職名 氏名 安本 明 志 美
事業の概要	救急業務体制整備事業として、現在の救急活動は、高度な知識を持った救急救命士が、全ての救急現場において出動し、高度な処置を行う必要があります。現在の救急救命士2名では不足しており、救急救命士の1名増員を実施した。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	19	消防・救急・防災体制の強化	
	単 位 施 策	3	消防・救急体制の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総 事 業 費	千円	3,678千円	3,120千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	千円	3,678千円	3,120千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	高度な処置を行える救急救命士の不足。		救急救命士の維持(4名)		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	全ての救急出動において、救急救命士が出動し、活動する事を目指す。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町民すべてにおいて、救急救命士の処置を受けられる環境を維持する。		① 資格者習得	目標年度	19年度
			目標値	1回	
			実績値	1回	
			達成度	100%	
		② 高度資格習得	目標年度	19年度	
			目標値	1回	
			実績値	1回	
			達成度	100%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①国家取得者(救急救命士)の採用	資格者を有する者を採用した。				
②気管挿管実習	より高度な救急活動を行うため、病院で実習を行い、気管挿管の資格習得をした。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	町民誰でもより高度な救急処置を受けるため、救急救命士の増員は、必要とされる。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当事業を実施したことにより、救急救命士の増員及び高度な気管内挿管を実施できることにより、重篤な傷病者の処置に有効とされ、活動の高度化が実施できる。
有効／概ね有効／課題あり		

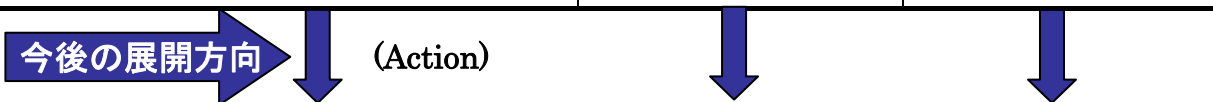
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	本来であれば、救急出動には全ての隊員が、救急救命士であることが望まれることから、当町において最小人数での救命士の運用は、救急救命士を育成していく経費を考えた時は、コスト削減ともいえる。また高度な知識を持った者の採用により、一般の救急隊員の相乗効果が図れる。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
救急活動は、より多くの町民に対し、高度な救命を行える観点から、この事業を進めることが適当と判断する。		



現状維持／継続		
当初の計画から、4名の救急救命士による救急活動を目指し、どの救急出動においても、充実した処置が出来るよう、救急救命士の整備は必要とされ、医療体制の細分化により、転院業務が増加している中、高度な救命活動がされ、安心な町である雄武町を目指すには、継続事業であることが、適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 15-2

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	消防施設整備事業			
評価者	担当課・係名	紋別地区消防組合消防署雄武支署 庶務係		
	課長等	職名	支署長（課長）	作成者
		氏名	渡邊 孝司	氏名
				職名
				係長
				氏名
事業の概要	消防団より要望があり、詰所の床面より寒風が入ってきて、特に冬期間に至っては、水道の凍結や、車庫内・詰所内が暖房を入れても温まらない事や、コスト面においても、防寒対策事業を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	4	うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	
	基本政策	19	消防・救急・防災体制の強化	
	単位施策	3	消防・救急体制の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	千円	493千円	千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	千円	493千円	千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	消防団員(第三分団員)	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	冬期間の災害等出動において詰所内で待機時に寒風が吹き込み支障をきたす。		冬期間の詰所及び車庫への寒風の吹き込みの改善								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	床下から寒風の吹き込みをなくす。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	冬期間の床下からの吹き込みをなくす。		① 実施工事回数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1回	実績値	1回	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1回										
実績値	1回										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度	年度	目標値		実績値		達成度	%
目標年度	年度										
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①防寒対策工事	発泡ウレタン吹付け工事を実施。										
②											
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	冬期間に火災出動で、濡れた身体を癒すため詰所に待機を余儀なくされた場合において、寒風を吹き込む場所を改善することは、必要とされる。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施したことにより、寒風の吹き込みは、改善され、歳末特別警戒において、深夜まで行われ、今まで寒風が吹き込み体温を奪われていたが、改善されたことによって、活動がスムーズになったと、団員から評価を受ける。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	断熱効果が優れ、燃料費のコスト削減につながり、消防車に至っては、車庫内のしばれがなくなり、エンジン始動についてもスムーズになり、バッテリーの消耗も防げるものと考えられる。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
暖房費が削減され、消防団員の作業にも有効的な活動ができているため、計画どおり事業を進めた事は、適当と判断される。		



自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
終了		
今回行われた事業により改善され、要望があった消防団員よりも高い評価を得られた事により、この事業の終了と判断する事が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項